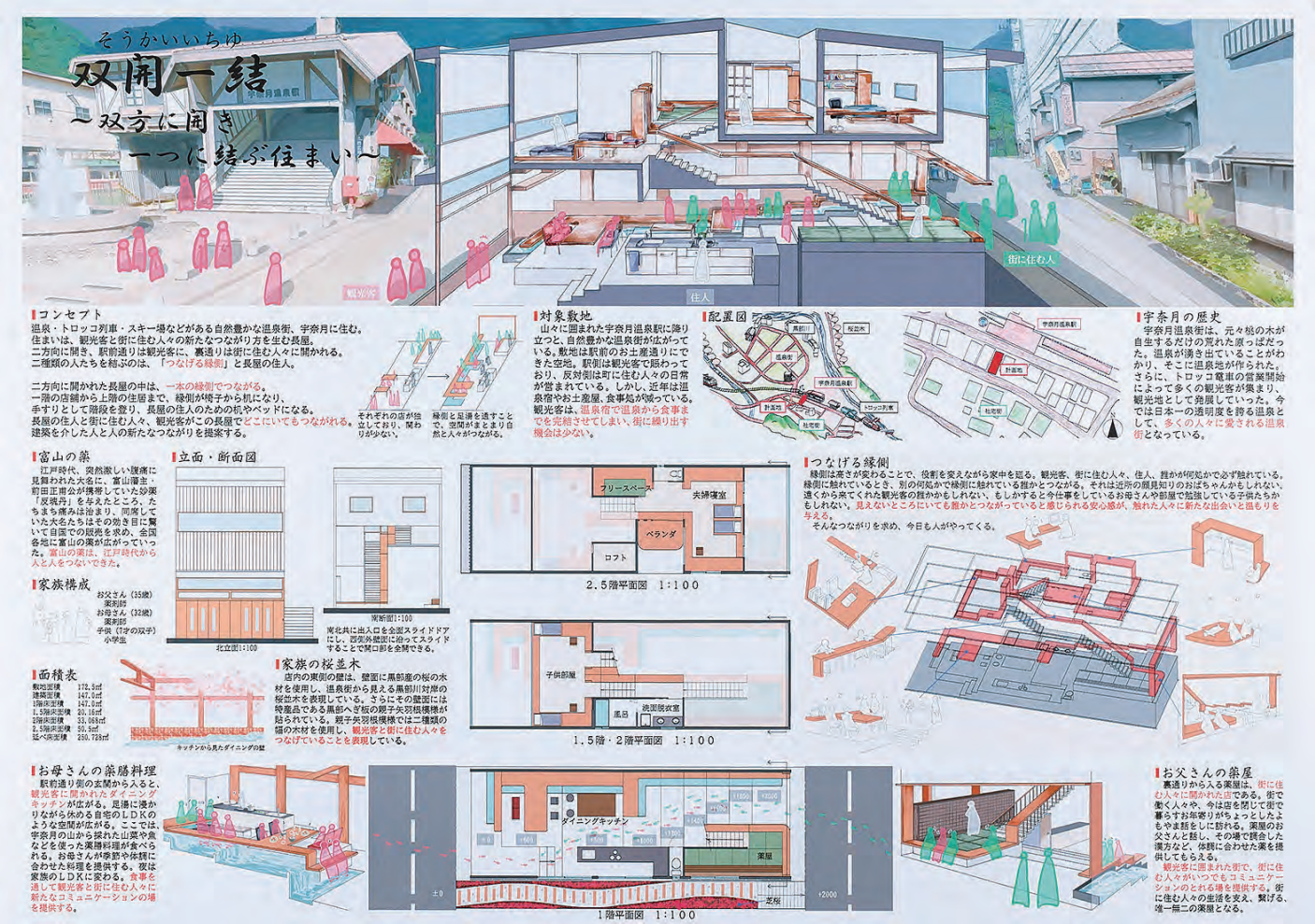
準優勝

双開一結 ～双方に開き一つに結ぶ住まい～

富山県 | 富山県立高岡工芸高等学校　選手…3年生3名



敷地設定や周辺環境の調査、地域の文化的背景の読み解きがしっかりと行われており、提案内容に的確に反映されている点が印象的です。「地域に開く」というテーマに対し、住まいと地域、住まいと観光客、そして観光客と地域という異なる立場の人々を繋げることを主題にし、それを一つの「縁側」で結びつけるというアイディアは興味深いものでした。縁側という伝統的な空間を活用し、現代のライフスタイルにおいてどのように機能するのかを模索しており、今回のテーマに沿った挑戦的な提案だと感じました。

設定された敷地の駅前通りに面する表側を観光客との接点を持つ場として、裏側を地域住民の日常的な生活と繋がる場として機能するという設計がされています。敷地の高低差を活かし立体的に縁側を配置することで、単なる機能的な繋がりではなくゆるやかで自然な繋がり方を生み出している点が秀逸です。住む人も、訪れる観光客も、ここで新しい発見や出会いを期待できるような空間が演出されており、地域コミュニティの新しい形を提示しています。

「地域と繋げる要素」として提案されたお父さんの薬屋と、「観光客と繋げる要素」として提案されたお母さんの薬膳料理を提供するダイニングのアイディアも魅力的です。一見すると異なる要素ですが、「富山の薬」というテーマを通じて統一感が与えられています。このような地域資源の活用手法が住まいの価値を地域全体に拡張し、コミュニティの活性化にも寄与する設計となっています。また温泉地ならではの足湯も、癒しの場を提供するだけでなく、地域の観光資源を活かした「地域に開く住まい」の象徴的な存在として機能しています。

欲を言えば、建物全体の外観にもう少し地域の魅力や繋がりの楽しさ、縁側の持つ日本的な要素を反映させることができれば、さらに魅力的な提案となったのではないかと感じます。

昭和的な要素を、現代の視点で再定義し、「まちに住む」という新しい価値観を提示している点がこの提案の大きな魅力です。縁側や地域資源を巧みに活用することで、地域コミュニティの新しいあり方を示しています。まちに住むことの喜びや豊かさを実感させるとても素晴らしい提案でした。準優勝、おめでとうございます。　（吉田）